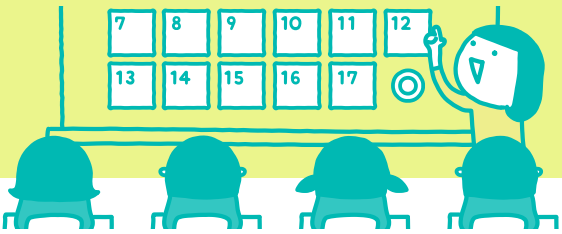
日文教育資料［中学校社会］

社会科 NAVI ナビプラス

中学社会



SDGsにかかわる小学校から中学校への学習の連続性

筑波大学教授
井田仁康

図１　SDGsの17の目標

日文の Webサイト
日文

※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

心が動く、その先へ。
日本文教出版

SDGsにかかわる小学校から中学校への学習の連続性

筑波大学教授 井田　仁康

01 SDGsと社会科

「SDGs（Sustainable Development Goals；持続可能な開発目標）」という用語は、社会に定着し、その理念も認知されてきている。地球温暖化による日常生活への様々な影響がニュースでも頻繁に取り上げられるようになった。同じ海域でも水揚げされる魚種が変わったり、秋になっても夏のような気候が続いたりといったことは日本でもみられる。世界的にも氷河の後退や熱帯地方での雨季と乾季が不明瞭になったことも報告されている。

しかし、地球温暖化が深刻な問題として認識されたのは1970年代とされ、すでに50年ほどたっている。この間にも地球の温暖化を緩和および抑止するために様々な方策がとられてきたが、地球温暖化は着実に進みつつある。世界的な気温が上昇しているといっても、毎年上昇しているわけでなく、上がったり下がったりを繰り返しながら、全体的に上昇していくので、実感として捉えにくく、気づいたときにはかなり深刻な状況になっている。

地球温暖化だけでなく、人口の不均衡から生じる経済格差や貧困問題、歴史的・政治的な軋轢からくる戦争など、世界では人びとが不幸になる様々な課題が生じている。このような課題を克服しようとするのがSDGsだ。SDGsは17の目標（表紙**図1**）と、169のターゲットからなる。

この課題を長期的な視野にたって解決していくためには子どもの頃からの教育が必要となってくる。SDGsを小学校や中学校で取り上げる理由はここにある。社会科は、このSDGsに真正面から取り組むことになる。それは、社会科のめざすところは個人のみならず、日本、世界の人々が幸福（Well-being）に暮らせる社会を構築していく能力を育成することであるからだ。この能力は公民的資質と言い換えることもできよう。こうした能力は、一部の人がもっていればよいわけでなく、全ての人にそうした能力を育成し、あらゆる立場からWell-beingを追究できるようにしていかなければならない。社会科には、子どもたちに今の社会的課題を克服し、未来に向かってWell-beingな社会を築き上げる人材を育てていくことが求められていると言えよう。こうした社会科の使命がSDGsを正面から取り上げていく背景となる。

02 中学校におけるSDGsの取り扱い

社会科の小学校用教科書では、SDGsを精力的に取り上げている。日本文教出版の小学校社会科教科書では、**図2**のように各学年でSDGsと関連づけたコラムを設けている。そこでは、それぞれの単元に合わせてSDGsと関連づけ、将来をどのように築きあげていくのかといった未来志向の思考を促している。さらには、取り上げた内容がどのようなSDGsの17の目標と対応しているのかを示してある。3年生では身近な生活とのかかわりから、4年生は伝統や自然とのかかわりから、5年生では市町村レベルでの対応から、そして6年生では政治、歴史、地球といったより広い見地からSDGsを捉えようとする。

小学校社会科での学習をふまえて、どのように中学校でSDGsを取り上げるべきだろうか。SDGsが社会

図２　各学年の単元におけるSDGsのテーマ

学年	SDGsのテーマ	
3	●市に昔からのこるたてものや自然を未来に受けつぐために ●まちをみんなで安全にしていくために	●食べられずにすてられてしまう食品をへらすために ●だれもが出かけやすいまちづくり
4	●石川県に昔から受けつがれてきた産業 ●水害にそなえて自分たちにできることを考えよう ●高千穂郷・椎葉山の産業や自然を未来に残すために	●多摩川の水を守るために ●伝統を受けつぎ、未来につなぐ
5	●バイオマス産業都市「エネルギーと資源が循環するまち」～佐賀市の取り組み～ ●限りある食料資源をたいせつにするために～横浜市の取り組み～ ●工業生産のこれからのSDGsの問題～東広島市の取り組み～ ●持続可能都市「スマートシティ」～宇都宮市の取り組み～	●2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）
6	●「彦根市子ども議会」で政治体験～よりよい市をつくりだすために～ ●縄文時代の人々のちえをわたしたちの生活に生かす ●感染症とたたかい、人々の命を守った上杉鷹山と後藤新平 ●日光の世界遺産を調べよう～伝統的な技術と保存活動～ ●地球上の「だれ一人取り残さない」ことの実現に向けて～自分にできること～	●歴史と文化がおりなすまち 古都鎌倉 ●安心して、くらし続けられるまちづくりに向けて

（日本文教出版　令和6年度版『小学社会』から抜粋）

科で扱う様々な事象とかかわりあっていることは小学校で学習しているので、中学校では自ら主体的にSDGsとのかかわりを探っていくことが重要になる。小学校社会科から中学校社会科のSDGsの学習のつながりを検討してみよう。

地理的分野では、世界の諸地域および日本の諸地域が扱われる。小学校のSDGsの着目点は、主に身近な地域や日本での活動にある。そこで、地理的分野では日本のみならず、グローバルな観点からもSDGsを捉えようとする。例えば、「世界各地の人々の生活と環境」では、世界各地の人々の生活とその場所の社会・自然環境とのかかわりを理解し、表現することが求められている。こうした学習の中で、現在の現象を把握するだけでなく、その場所で生活するうえでの課題をも見出すことができよう。熱帯地方では森林が伐採され、森に住んでいた人々の環境が大きく変わり、住居や仕事も変わっていった。こうした中で経済成長が進んだが、自然と共存して暮らし、そこに生きがいを感じていた人々の生きる力は奪われていくことになる。こうした課題を教科書の記述や調べ学習から生徒自身が見出すことで、SDGsの目標のうち「⑧働きがいも経済成長も」「⑮陸の豊かさも守ろう」と結びついてくることが認識されよう。つまり、この場所ではSDGsの「⑧働きがいも経済成長も」「⑮陸の豊かさも守ろう」が最重要目標の一つとなるのである。**SDGsの17の目標はどれも重要であるが、場所により最優先の目標には相違があることを生徒に実感させることができよう。さらに、こうした課題は、その場所だけで解決できるものではなく、国境をこえてグローバルな観点から世界で協力しなければ目標を達成できないことも理解できることがめざされる。**

小学校社会科で、歴史や文化を反映した地域があり、伝統を未来に受け継ぐことや、歴史的遺産が世界遺産になっていることなどをSDGsと結び付けていることから、**歴史的分野では、各時代の生活の工夫・改善や文化が、今の私たちの生活を築いていることに気付き、そこでの課題を見出すことがSDGsと結びついてこよう。**例えば、現代の生活は、稲作をはじめとする農作物の栽培の工夫や流通の発達などに支えられてきた。一方、その過程では経済格差や人にも害を及ぼすとされる農薬の使用などの課題もあった。つまりはSDGsの「⑩人や国の不平等をなくそう」「⑫つくる責任つかう責任」ともかかわっている。こうした歴史的な生活の改善や産業の発達の経験は、日本のこれからの発展に寄与するだけでなく、食糧不足などに悩む国々の「①貧困をなくそう」「②飢餓をゼロに」「③すべての人に健康と福祉を」といった目標に助言、貢献でき、日本の役割としても「⑰パートナーシップで目標を達成しよう」の目標にかかわるのである。こうしてみると、歴史的分野の学習においても、将来の人々に負担

を残さずに発展していく社会、つまりはSDGsを達成した持続可能な社会の構築にかかわることは多いのである。

公民的分野では、小学校での具体的な内容から、「対立」「合意」「効率」「公正」といった概念を通して、ジェンダー、福祉、教育、平和などに取り組む。そして、そこでの課題やめざすべきこと、つまりはSDGsを意識したうえで、**現代の人々がWell-beingであるとともに、将来の人々も「誰ひとり取り残さない」Well-beingであり続ける持続可能な社会を構築できる人間を育成しようとする**のである。こうした社会科教育は、小学校から中学校まで段階的に積みあげていくものであり、公民的分野は小学校での学習や地理的分野、歴史的分野でのSDGsの学習を小括する役割もある。

03 持続可能な社会に向けて

SDGs達成のためには、世界の人々が国境をこえ、職業をこえ、ジェンダーをこえて協力していく必要がある。そのためには、SDGsを達成させるような教育が必要となる。その教育はESD（Education of Sustainable Development；持続可能な開発のための教育）であり、社会科はその教育を推進する最も重要な教科の一つである。社会科でESDが推進される際には、**探究的な学習を行うことでの思考力育成、資料を分析する能力・技能の育成、意見交換を図ることでのコミュニケーション能力育成、そしてこのような学習を通して自分はどう考え、どうすべきと考えるのかといった価値観を培う学習が重視される**。この価値観は持続可能な社会を構築していくためには必要不可欠である。

一方でこうしたSDGs達成のための教育は小学校から行われているが、小学校、中学校でバラバラに行われれば、子どもたちは食傷気味となり、「また繰り返しの勉強か」となりかねない。こうしたことからもSDGsの学習は、社会科に限定しても小学校の学年間、小学校から中学校への連携、地理、歴史、公民的分野の役割分担を明確にし、子どもたちに学習の重要性を認識してもらうことが必須である。SDGs達成のためには、その大きな役割を担う社会科がエビデンスをもった未来志向の教科であるとともに、小・中学校間の連携を図った持続可能な学習内容としなければならない。

井田仁康（いだよしやす）
専門分野／社会科教育学・地理教育
主要著書／『世界の今がわかる「地理」の本』（編著）（三笠書房、2023年）、『授業をもっと面白くする！中学校地理の雑談ネタ40』（明治図書、2018年）、『究極の中学校社会科ー地理編ー』（編著）（日本文教出版、2013年）
日本文教出版『小学社会』『中学社会』教科書著者

社会科 NAVI＋ 中学社会⑭

日文教育資料［中学校社会］
令和５年（2023年）12月15日発行

編集・発行人　佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL：06-6692-1261
FAX：06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33692

日本文教出版株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL：06-6692-1261　FAX：06-6606-5171

東京本社　〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL：03-3389-4611　FAX：03-3389-4618

九州支社　〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL：092-531-7696　FAX：092-521-3938

東海支社　〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F·B
TEL：052-979-7260　FAX：052-979-7261

北海道出張所　〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL：011-764-1201　FAX：011-764-0690